



府食第602号

平成24年6月25日

食品安全委員会

委員長 小泉 直子 殿

遺伝子組換え食品等専門調査会

座長 澤田 純一

遺伝子組換え食品等に係る食品健康影響評価に関する審議結果について

平成21年12月1日付け21消安第9899号をもって農林水産大臣から食品安全委員会に意見を求められた飼料「チョウ目害虫抵抗性ワタ COT102 系統」に係る食品健康影響評価について、当専門調査会において審議を行った結果は別添のとおりですので報告します。

# 遺伝子組換え食品等評価書

チヨウ目害虫抵抗性ワタ COT102 系統

2012年6月

食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会

### <審議の経緯>

2009年12月1日	農林水産大臣から遺伝子組換え飼料の安全性に係る食品健康影響評価について要請（21消安第9899号）、関係書類の接受
2009年12月3日	第312回食品安全委員会（要請事項説明）
2009年12月14日	第77回遺伝子組換え食品等専門調査会
2010年9月6日	第84回遺伝子組換え食品等専門調査会
2012年4月25日	第103回遺伝子組換え食品等専門調査会
2012年6月25日	遺伝子組換え食品等専門調査会座長から食品安全委員会委員長に報告

### <食品安全委員会委員名簿>

2011年1月6日まで	2011年1月7日から
小泉直子（委員長）	小泉直子（委員長）
見上 彪（委員長代理）	熊谷 進（委員長代理*）
長尾 拓	長尾 拓
野村一正	野村一正
畑江敬子	畑江敬子
廣瀬雅雄	廣瀬雅雄
村田容常	村田容常

\* : 2011年1月13日から

### <食品安全委員会遺伝子組換え食品等専門調査会専門委員名簿>

2011年9月30日まで	2011年10月1日から	
澤田純一（座長）	澤田純一（座長）	
鎌田 博（座長代理）	鎌田 博（座長代理）	
五十君静信	五十君静信	手島玲子
石見佳子	宇理須厚雄	中島春紫
海老澤元宏	橘田和美	飯 哲夫
小関良宏	児玉浩明	和久井信
橘田和美	澁谷直人	
児玉浩明		

## 要 約

「チョウ目害虫抵抗性ワタ COT102 系統」の飼料の安全性について、申請者提出の資料を用いて食品健康影響評価を行った。

本系統は、*Bacillus thuringiensis* AB88 株に由来する改変 *vip3A* 遺伝子を導入して作出されており、改変 *Vip3A* タンパク質が発現することで、チョウ目害虫による影響を受けずに生育することができるとされている。なお、本系統には、選択マーカーとしてプラスミド pKC203 に由来するハイグロマイシン B リン酸基転移酵素遺伝子が導入されている。

本系統では、新たな有害物質が生成されこれが肉、乳、卵等の畜産物中に移行することは考えられず、また、畜産物中で有害物質に変換・蓄積される可能性や遺伝子組換えに由来する成分が家畜の代謝系に作用し新たな有害物質が生成されることは考えられない。

「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」（平成 16 年 5 月 6 日食品安全委員会決定）に基づき評価した結果、改めて「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準（平成 16 年 1 月 29 日食品安全委員会決定）に準じて安全性評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物について安全上の問題はないと判断した。

## I. 評価対象飼料の概要

名 称：チョウ目害虫抵抗性ワタ COT102 系統

性 質：チョウ目害虫抵抗性

申請者：シンジェンタジャパン株式会社

開発者：Syngenta Seeds, Inc. (米国)

「チョウ目害虫抵抗性ワタ COT102 系統」(以下「ワタ COT102」という。)は、*Bacillus thuringiensis* AB88 株に由来する改変 *vip3A* 遺伝子を導入して作出されており、改変 *Vip3A* タンパク質 (m*Vip3A* タンパク質) が発現することで、チョウ目害虫による影響を受けずに生育することができるとされている。なお、ワタ COT102 には、選択マーカーとしてプラスミド pKC203 に由来するハイグロマイシン B リン酸基転移酵素遺伝子が導入されている。

## II. 食品健康影響評価

1. ワタ COT102 は、チョウ目害虫抵抗性の形質が付与されたものである。なお、遺伝子組換え作物を飼料として用いた動物の飼養実験において、導入された遺伝子若しくは当該遺伝子によって産生されるタンパク質が畜産物に移行することはこれまで報告されていない。
2. ワタ COT102 は、平成 24 年 6 月 21 日付け府食第 600 号で、食品安全委員会において、「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」（平成 16 年 1 月 29 日食品安全委員会決定）に基づき、食品としての安全性評価を終了しており、ヒトの健康を損なうおそれがないと判断されている。

上記 1 及び 2 を考慮したところ、ワタ COT102 に新たな有害物質が生成されこれが肉、乳、卵等の畜産物中に移行することは考えられず、また、畜産物中で有害物質に変換・蓄積される可能性や遺伝子組換えに由来する成分が家畜の代謝系に作用し新たな有害物質が生成されることは考えられない。

ワタ COT102 については、「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」（平成 16 年 5 月 6 日食品安全委員会決定）に基づき評価した結果、改めて「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」（平成 16 年 1 月 29 日食品安全委員会決定）に準じて安全性評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物について安全上の問題はないと判断した。